

今号の主な記事

- 2面 新造船タグボート「いせしお」(名古屋)
金刀比羅宮神戸分社で参拝(関西)
- 3面 北海道函館水産高等学校で
船員職業説明会(道南)
神奈川県立海洋科学高等学校で
漁業ガイダンス(三崎)

船員しんぶん

◆ホームページアドレス <https://www.jsu.or.jp> ◆Eメールアドレス kaiin@jsu.or.jp
全日本海員組合発行 第3106号 (昭和25年8月24日第三種郵便物認可)

2026年(令和8年)

1月15日

本紙は毎月5・15・25日発行

〒106-0032 東京都港区
六本木7丁目15番26号
全日本海員組合本部
発行人 斎藤 洋
TEL 03-5410-8329
FAX 03-6910-5339
定価 1部 50円
(組合員の購読料は組合費に含む)

2026年 関東地方支部 旗開き新年会

旗開き新年会は木下友喜関
東地方支部副支部長の司会で
はじまり、主催者代表あいさ
つで高宮成昭関東地方支部長
は「海運業界も船員職業の後
継者の確保育成が最優先課
題。次世代を担う人材を育て
ることこそ、われわれ全体の使
命であり、次世代の担い手の
使命であることを強調した。

ための環境整備などして業界
の未来はない。今年も関東地
方支部は一丸となり、さきま
で高宮成昭関東地方支部長
は「海運業界も船員職業の後
継者の確保育成が最優先課
題。次世代を担う人材を育て
ることこそ、われわれ全体の使
命であり、次世代の担い手の
使命であることを強調した。

松浦満晴組合長が「海運・水
産産業を取り巻く状況は多く
の課題が山積しており、あら
ゆる産業で人手不足、人材確
保競争が激化している中、船
員職業の担い手の確保は業界
全体の最重要課題の一つで、
官民労使が一体となり手力を
取り組まなければならない。

本組合も船員職業を尊ぶる子
どもたちが一人でも多くなる
よう、船員の魅力を広く知つ
てもいい、海に親しむ活動も
含め組合活動に全力を尽くす」と、海員組合が実施して
いる体験乗船や各地域での体
験授業、海員組合独自の選挙
制度の成果などに触れ、船



左から吉松敏宏商船三井職場委員、松浦満晴組合長、高宮成昭関東地方支部長、
藤井勝啓東海汽船職場委員



あいさつする松浦満晴組合長

あいさつする高宮成昭関東地方支部長

真冬の寒波が押し寄せる1月8日、16時30分から関東地方支部の3階大会議室で現場組合員、職場委員、組合政治参与、国會議員をはじめとする各級議員、友誼団体、関係する行政機関、担当会社関係者など約400人が出席し、2026年関東地方支部旗開き新年会を開催した。関東地方支部の旗開きは2020年の開催以降、コロナ禍で開催を控えてきた経緯があるが、今年も昨年に続き開催できる運びとなり、来賓あいさつには全横浜港湾労働組合連合会の堀内秀紀執行委員長と海員組合政治参与の浅尾慶一郎参議院議員、同じく海員組合政治参与の伊関功滋横須賀市議会議員に駆けつけていただき、執行部と職場委員、現場組合員が一致団結して、これからの組合活動を盛り上げる旗開きとなつた。

▽堀内秀紀全横浜港湾労働組合連合会執行委員長▽石川和幸日本労働組合総連合会神奈川県連合会副事務局長▽佐藤克文国土交通省関東運輸局次長▽竹内紀充横浜市港湾局港湾物流部長▽伊関功滋横須賀市議会議員(本組合政治参与)▽浅尾慶一郎参議院議員(前環境大臣・本組合政治参与)からそれぞれ祝辞が述べられた。

今年の円満末広がりを願う旗開き恒例の鏡開きでは、松浦満晴組合長、高宮成昭関東地方支部長、吉松敏宏商船三井職場委員、藤井勝啓東海汽船職場委員の4人が小槌を握りしめ、会場の「よいしょ! よいしょ! よいしょ!」の掛け声に合わせて勢いよく酒樽のふたが割られ、田中翼日本郵船職場委員が乾杯の音頭を取った。

参加者が歓談する中、安藏巧関東地方支部在籍事務執行部員が本旗開き新年会に寄せられた祝電を披露した後、ヴァイオリン、ピアノ、声楽による演奏会が行われ、会場は和やかな雰囲気に包まれた。最後に、大滝恒関東地方支部長代行の音頭による「ガンバロー三唱」で、旗開き新年会を締めくくった。



大滝恒関東地方支部長代行
によるガンバロー三唱



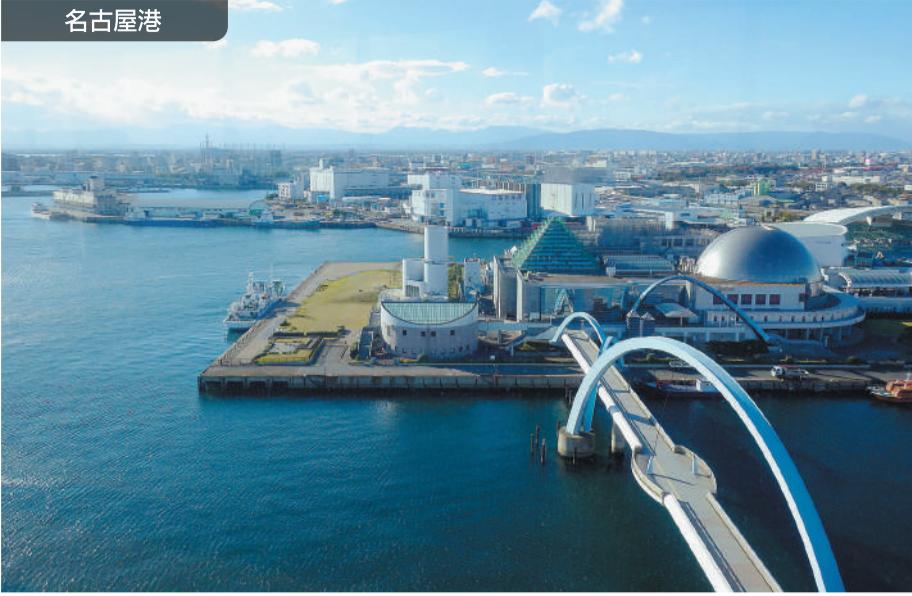
演奏会



会場のようす

船員の担い手確保は海運業界の最重要課題

名古屋港



グリーン海事株式会社は、4隻のタグボートを運航し、LNG船をはじめ原油タンカー、プロダクトタンカー、木材チップ船、コンテナ船、自動車運搬船やクルーズ船など、大型船の入出港における離着岸のサポートやエスコート作業に従事し、国内屈指の貨物取扱量を誇る名古屋港として発展してきた名古屋港のシンボル、名古屋港ボート自らのそばには、昭和40年から18年間にわたり活躍した南極観測船「ふじ」が昭和60年から係留されており、現在まで多くの見学客でにぎわってい る。 〈名古屋支部＝発信〉

12月16日、金井造船株式会社より引渡されたグリーン海事株式会社の新造船タグボート「いせしお」が名古屋港に配備された。

新造船の「いせしお」は旧「いせしお」の代替船として建造され、船名を引き継ぐとともに、従来船と比べて操船時の安全性と操縦性を高めるため、船橋からモニターで全方位を確認できるカメラを取り付けた。

島宗英船長は、「わがタグ道に一 片のくいなきように邁進する」と力強く語り、新造船への自信と意気込みを示した。

古くより名古屋城の城下町に職人が集い、ものづくりの街として発展をとげてきた名古屋市は、現在も自動車産業を中心とした日本の産業をけん

神戸港



昨年は大規模火災に記録的猛暑、地震等など自然災害に脅威を感じる一年であったが、不安定な世界情勢から一刻も早く脱却し、平和に暮らせるよう全員で祈願した。

穂やかな冬晴れの1月6日、
神戸市兵庫区にある金刀比羅
宮神戸分社を、浦隆幸関西地
方支部長をはじめ執行部とケ
イラインローローバルクシップ
マネージメント株式会社の山
崎諒職場委員が参拝した。
この神社は、讚岐金刀比羅
宮の神戸分社として、明治15
年に神戸市兵庫区福原町に金
刀比羅宮遙拝所を兼ねた崇敬
講社福原集会所によつて設置
されて以降、海上安全・大漁
満足の「福原のこんひさん」
として祀られ、現在も親しま
れている。

立候補届出期間	2026年1月15日より 2026年1月24日まで
候補者告示	2026年1月25日
投票期間	2026年1月25日より 2026年2月24日まで
当選人告示	2026年2月25日（予定）
三、補充選挙の被選挙人	
(1) 地方区	
全国委員選挙規則第25条A項により、補充選挙告示曰 に当該地方単位の支部機関に配属されており、選挙資 格を有する執行部員とする。	
四、立候補の届け出	
立候補をする者は、全国委員選挙規則付表の一に定 める様式に基づく立候補届を当該地区選挙委員会へ提 出すること。	
五、補充選挙の実施に関する問い合わせ先	
中央選挙委員会事務局 (総務部)	1名 《選挙単位》「一・単位名」 地方単位 04 関西 二、補充選挙の実施日程

・単位名	実施日程	関西
第25条A項	2026年1月15日より	
は、全国委員選挙規則付表の一に定	2026年1月24日まで	
立候補届を担当地区選挙委員会へ提	2026年1月25日	
出する。	2026年1月25日より	
投票人	2026年2月24日まで	
投票人	2026年2月25日（予定）	

Figure 1. A schematic diagram of the wavelet-based feature extraction process.

グリーン海事株式会社

新造船

タグボートいせしお就航

新造船「いせしお」



A night photograph of the Nagoya Port area. In the foreground, a white boat is docked at a pier. The middle ground shows a large industrial building with several tall chimneys emitting smoke or steam. To the right, the distinctive white Nagoya Port Tower stands prominently against the dark sky. The water in the harbor reflects the lights from the buildings and boats. The overall atmosphere is dark and moody, with artificial lights providing illumination.

平和で豊かな海を願う 金刀比羅宮神戸分社で参拝



左から佐藤宗昭関西地方支部副支部長、和田文男関西地方支部長代行、浦隆幸関西地方支部長、山崎諒ケイラインローローバルクシップマネージメント職場委員

第40期全国委員の当選告示

2026年1月15日
中央選挙委員会
議長
齋藤洋

一、2026年1月5日付で告示した第40期全国委員会補充選挙については、立候補の受け付けを締め切り、立候補者の資格審査を行い、候補者が適格であることを確認した。



函館港に着桟中の練習船・若竹丸



日本の海上物流や漁船漁業を担う 船員の重要性を説明

乗船中の体験談で漁船漁業の魅力を伝える



12月22日、神奈川県立海洋科学高等学校実習棟2階教室で、漁業ガイドによる「漁師の仕事! 知る授業」が開催された。神奈川県立海洋科学高等学校の本科1年生9人と本科2年生6人の計15人が出席した。

この漁業ガイドは一般社団法人全国漁業就業者確保育成センターが中心となり開催しているもので、今回のガイドは海員組合のほか、住吉漁業株式会社、大洋工アンドエフ株式会社、株式会社勝栄丸、共和水産株式会社、勝倉漁業株式会社、株式会社勝栄丸、飯古建設有限会社などが参加した。

漁業ガイドの開始にあ

り、各アイスでは、漁船員になれるための必要な海技免状などの質問もあり、担当者が説明した。最後に事務局から、漁業就業支援フェアの案内があり、ガイドを終えた。



船員職業説明会で生徒たちに 船員の魅力を伝える

12月17日、北海道函館水産高等学校で、本科1年生および3年生を対象に船員職業説明会を開催し、全日本海員組合道南支部の執行部と職場委員が講師として参加し、生徒たちに船員職業の魅力を伝えました。

本説明会は、本校の生徒たちへ、船員職業を中心に行なった。船員の関心を深める目的で、例年この時期に実施しており、今回の説明会には海洋技術科から12人、機関工学科から18人の合計30人が出席した。

開催にあたり、山崎秀和北海道地方支部長兼道南支部長があいさつした後、福島隆史

道南支部在籍専従執行部員から船員職業の説明、津軽海峡フェリー株式会社の山崎圭一職場委員と昭和日タシマリタイム株式会社の加藤典嗣職場委員から、フェリーや内航船の船内生活と船員の魅力について、体験談を交えながら説明し、意見交換の中で理解を深めてもらつた。

説明会が終わり、学校側からは「船員職業の魅力を生徒に伝えさせていただき感謝する。

生徒の為にも引き続き説明会を開催して船員の魅力を伝えたい」との継続的協力を要望する意見が述べられた。

（道南支部）



神奈川県立海洋科学高等学校

漁師の仕事! 知る授業



たり、一般社団法人全国漁業就業者確保成センターの北井楓係長から、本ガイドの進め方について説明があった後、全日本海員組合三崎支部の錦織康一次長が「各社からの説明を受けて漁船漁業の魅力を知つていただき、将来就職する際の職業の選択肢として参考にしていただきたい」とあいさつした。

ガイドは7社で5ブースを設置、各ブースで担当者からは、会社の概要をはじめ、漁業の種類や漁法を中心とした動画で、生徒たちの注目を集めた。

遠洋かつお一本釣り漁業のブースでは、本校の卒業生である漁労長が出席し、生徒たちに乗船中の体験談を説明するとともに、漁獲に使用している疑似餌を展示し、生徒が疑似餌を手に持ち興味を示している姿が見受けられた。

遠洋まぐろはえ縄漁業のブースでは、漁法をはじめ乗船期間や船内生活などの説明がなされ、最近は乗組員構成が若返ってきていくことなど遠洋漁船の魅力を伝えた。

各ブースでは、漁船員になるための必要な海技免状などの質問もあり、担当者が説明した。最後に事務局から、漁業就業支援フェアの案内があり、ガイドを終えた。

（三崎支部）



12月5日に第40回海員ボウリング大会を名古屋市のコロナキャットボウル中川店で開催し、組合員とその家族など約40人が参加した。

はじめに開会式を行い、山原始名古屋支部長が「名古屋及び四日市近辺の会社の組合員が集結している。日頃の鬱憤を晴らすと共に近隣会社との交流を深めていただきたい」とあいさつした。

始球式は昨年度の優勝者のナゴヤシップサービスの永山賢さんが務め、豪快な投球でゲームがスタートし、会場では白熱したゲームが続いた。

競技中はミスをしてしまい悔しがる姿やストライクを連発し、会社の垣根を超えてハイタッチする姿も見られ、会場は大いに盛り上がった。

競技の結果、優勝はナゴヤ

シップサービスの小久保侑也さん、準優勝はコスモ海運の吉田充洋さん、三位はナゴヤシップサービスの伊藤奏太さんとなり、閉会式で入賞を祝った。優勝者の小久保さんは、「次回のボウリング大会にも参加するので、私も挑んでほしい」との力強いビーチを述べ、会場をわかせた。

また、ボウリング大会の後には、ジャンケン大会が行われ、景品の目玉である任天堂スイッチライトを太平洋フェリーの梅木信吾さんが勝ち取った。また、太平洋フェリーの往復ペアチケットは、ナゴヤシップサービスの竹内直嗣さんと永山賢さんが勝ち取り、最後まで和気あいあいとした雰囲気の中、海員ボウリング大会が幕を閉じた。

《名古屋支部》発信

第40回 海員ボウリング大会

名古屋地区と四日市地区
ジャンケン大会も盛り上がる



子どもたちの始球式

ゲーム終了後、表彰式が行

われ、賞品が授与されるたび

に会場に歓声が響き渡った。

ゲーム中は、仕事仲間や他

社旧友との交流を楽しむ人

や、他チームに負けないと奮闘する人などで、会場は熱気と笑いで最高に盛り上がった。

ゲーム終了後、表彰式が行

われ、賞品が授与されるたび

に会場に歓声が響き渡った。

ゲーム終了後